

## 高崎経済大学外部評価委員会 議事録

- 1 日時：2010年4月2日（金）  
13時30分から15時10分まで
- 2 会場：学内大会議室（事務棟3階）
- 3 委員：江守 克彦（前橋工科大学長）  
原 浩一郎（高崎商工会議所会頭）  
栗原 則幸（上毛新聞社高崎支社長）  
藤倉 新一（高崎高等学校長）
- 4 議事

### <吉田学長>

それでは委員長の選任について、暫時議長を務めさせていただきます。

委員長につきましては委員会規程第6条第2項により委員の互選により選任をすることとなっており、委員のみなさまからご意見をお願いいたします。

「事務局に腹案はありませんか」との発言あり。

ただいま事務局に腹案があればとご発言がありましたが事務局いかがでしょうか。

### <事務局>

事務局といたしましては委員長には前橋工科大学の江守学長さんをお願いできればと考えております。

### <吉田学長>

江守学長という案がでておりますがいかがでしょうか。

「異議なし」との発言あり。

それでは委員長は前橋工科大学の江守学長さんをお願いいたします。

### <江守委員長>

前橋工科大学学長の江守です。私が本日の会議の議長を務めさせていただきます。

本日の会議におきまして皆様から高崎経済大学の大学経営の改善、あるいは教育・研究の質の向上、地域貢献などについて役立つような有益なご提言ご意見をいただきたく思います。

評価と改善に関する意見交換・質疑応答についてを議題といたします。

まずはお一人ずつご意見をお話しして頂きたいと思います。

#### <委員>

私なりの評価すべき事項、改善すべき事項を、素人の考えですので、的を射ているかどうか全然わかりませんが、お話をさせていただきます。

まず評価すべき事項ですが、教育研究組織のところで、地域政策学部を設置していたことが、地方の大学として一番大切なこと、特に評価すべきことかなと思います。その中に観光政策学科、これの創設も時代を反映した時宜を得たものだと思います。むしろ私のほうから感謝申し上げます。高崎の商工会議所もこれからのまちおこしは、今までは大企業を呼んできて、工業団地に大きな工場を作ってもらって雇用や何かとやっていたが、もうそういう時代はそろそろ終わったのかなと思います。これからのまちづくりはその街が持っている歴史や文化を掘り起こして、それを観光につなげていく、そういうまちおこしがこれからは一番大切になるのではないかなと思います。名称は高崎商工会議所ですが、考え方は高崎の商工観光文化会議所くらいのところで、幅の広い機能・考え方を持っていくべきだなと思っておりまして、最初にあげさせていただきました。

学生の受け入れのところは前から感心しておりまして、全国各地に試験会場を設けて、多くの優秀な受験生が集まってきている。それから3番目に学生生活の中で、学生への経済的支援で色々な制度があるようございまして、他の大学にあるのかはわかりませんが、同窓会奨学金制度が大変特筆されたことだと感じました。

改善すべきこと、私なりにこういうことかなと感じましたが、ちょっとわからないことがあり、本校の卒業生に2、3聞いてみたので、それを踏まえて意見をさせていただいております。

高崎経済大学附属高校との関係は、今後は少子化高齢化の傾向が強まっているなかで固定客の確保、商売人の言葉を使って申し訳ないのですが、そういう事も大変重要な要素として将来出てくると思います。いずれにしても経大の附属高校からの入学の選抜について、将来定数なども含めて枠組みについての検討をいただいたらどうかと感じたところです。

2番目で施設、設備のところですが、将来のことを考えて現在のキャンパスが少し狭いのではないかと感じております。将来校地拡張、中心市街地の活性化という意味でも、中心市街地の中のサテライト事業というようなことも考えていただけたらと思います。

それから財政の所ですが、これが一番大切と言えれば大切なのですが、法人化になった場合の財政基盤の確立、大変重要なところになります。高崎市との関係はもちろん後

援会、同窓会との連携もより大事になってくると思います。これは一つの提案ですが、大学側と後援会、同窓会との連携協議会があるかわかりませんが、なかったらそのこともお考えいただけたらと思います。

教員組織のところ、専任教員の数が他の大学に比べて少ない、その原因が何か、何でそんなことになるのか、色々理由はあると思いますが、検討していただく必要があるのかなと思います。

これは私の希望ですが、専任の教員、教授はできるだけ高崎に住んでいただければ、なお地域のことがよくお分かりいただけるし、地域政策学部が一番大きな要素になるのかなと思います。

事務組織のところですが、将来の独立法人化になった場合に、高崎市から来ている職員の人数がどういうことになるのかわからないので、お聞きしたいなと思いました。直接大学の職員の採用が起きてくるかと思いますが、専門の職員がいて、大学の歴史を全部語るような長年勤務ができるのかなと。今、市の職員の方は何年かで代わられるようですので、そんなことも感じました。

総括として、52年53年の歴史を積み重ねて、自他共に認識された有名な大学になったと思います。今後は未整備な点、拡充すべき点などを検討していただき、優先順位をつけながら選択と集中の考えで、充実していただくことが必要だと思いました。

#### <委員>

昨日(4月1日)付けで高崎市制110周年の紙面を作らせていただき、吉田学長をはじめ市内各大学の学長のお言葉と、大学の今の様子の特集を組ませていただきました。その中に、高経大という言葉が数多く出てきます。つまり、極めて高経大が動いている、色々な活動をしているということが、まずもってお話ししたいことです。

また、自分が受験をした頃のことを思い出し、考えながら、高経大に対してどう思うという率直な感想・意見を述べさせていただきたいと思います。

評価すべき事項につきましては1957年の開学以来、単科大として発展を遂げ、1996年から新学部を加え、学部、大学院、研究施設とも一層充実、商都高崎の伝統を踏まえ、実学の精神で学生を教育している。それが1番目です。また、いち早く試験会場を高崎だけでなく札幌、仙台、東京など全国8か所に設置し受験可能とし、その結果、全国から学生が集まって高い競争力を維持している。3番目として、図書館を市民、県民に広く開放しているほか、公開講座や講演会、たかさき活性剤本舗など、色々な連携事業を行っている。つい最近、大宮副学長が座長をされた観光の会議にも出ましたが、先ほど申し上げました、動いているというのがまさにぴったり当てはまると考えております。

次に改善すべき事項は、中に何力所か広く周知されているという言葉が出てくるのですが、本当にそうなのかな、群馬県民及び高崎市民は極めてPRがヘタなのにと思う。つまり、これだけ動いているのを果たしてどこまで市民、県民が知っているのかという素朴

な疑問を感じ、またマスコミとして私どもの努力が足りないのかなという気持ちも持ちながら、上記図書館の利用率はどのなのだろうと。確かに、他の公立大学に比べ遜色ない状況と表記されてはいるのですね、ただそれがどういう評価なのかちょっとわからない。

また、盛り上がりというか、地域との繋がり・連携という点で「三扇祭」という学祭に対して、近所の方々がどのくらい参加されているのだろうか？私どもの会社、高崎支社に地域政策学部のOBかな、硬式野球を4年間やった甲子園球児がいますが、彼曰く「非常にその辺りの知名度というかPRが少ない」という話も踏まえて、その3学科のある新たな学部、地域政策学部がどの程度知られているのかという事に対して疑問を感じました。より一層のPRと交流というものを積極的にされたいかがでしょうか。

次に総括、私が先ほど申し上げた受験時の有名公立大学と言えば高経、都留文、横浜市立、都立など。ですから、知名度は極めて高いと思っていますし、高崎の四季折々の過ごしやすい環境が気に入ってそのまま群馬・高崎に残る方も多く、まさに卒業生が色々な分野で活躍していて、その名は全国津々浦々まで知れ渡っている。

一方、少子化が進んでおり、国立大学も授業料が随分上がっている。今や入学時に80万円くらいのお金がかかるらしい。それから公立大学も同じくらいのお金がかかるということを知りました。では学費面で、私立大学とどこが違うのかと考えたときに、それほど違いはないんじゃないかと思います。そうすると当然のことながら、今公立大は70数校ありますが、その中からまさに選ばれる大学というのを目指さなければいけないのではないかと、ブランド戦略というものをどのようにお考えになっていて、なおかつ実施しているのかということをお考えしました。

大変失礼なのですが、どうしても派手さがないというのが外から見た人間のイメージで、まじめで非常に勉強ができるけど決して派手ではない、というのが私の思っている高経大生です。そのへんのイメージを考えながら、まず高校生が受験生になって在校生になり、卒業生になって同窓生になるという、いわゆるステークホルダーといいますが、利害関係者がこういうプロセスを経ながら高経大とかかわってくるわけですが、その現状の中で私がまず思ったのはホームページが暗すぎる。他の公立大もみんなこんなのかなと思って改めて見てみたのですが、非常に明るく楽しいイメージができる大学もありました。勉強する環境が整っていることはもちろんですが、4年間過ごす勉強以外の環境がいいということが選ばれる理由の1つになるのかなと思います。

次に、高崎経済大学という学校名が果たしていいのだろうか。例えば高崎市立大学というのも選択肢としてあると思います。高崎市立大学であれば、高崎市の運営がきちんと出てくるわけですから、メリット、デメリットをもう1回考えてみる必要があると思う。

それからマーク、キャラクター、グッズというものについては、ここではUIの確立と書きましたが、当然のことながらマークだとか封筒だとかそういうものを先に思い浮かべますが、そんなことはどうでもいいことなんです。まず今持っている有利性というか、特徴というか、高経大の魅力というものをきちんと打ち出す。

これは吉田学長のお言葉ではないので申し訳ないのですが、上武大の鈴木守学長の言葉の中に「群馬県・高崎市は大都市と一味違うすばらしい環境に恵まれている」ということが書いてあります。それは最大の魅力でもあるわけですし、高経大ってこんないいところだよ、魅力的なんだよということを、もう一度、先ほどのステークホルダーの方々も踏まえて、考えてみる必要があるのではないかなと思います。失礼ですが、そういうPRが足りていないんじゃないかな、そういうことを考えました。

最後に、果たしてこれがいいかどうかわかりませんが、上武大学の戦略というのはある意味非常にうまいと感じます。硬式野球を全国で準優勝するまでにレベルアップさせ、駅伝では花田さんという早稲田出身の駅伝選手を監督に引っ張ってきている。まず引っ張ってきたことから話題にして、箱根駅伝で部員が区間賞まで取ったわけですから、あそこまで出ればPRというの、金額に換算した場合相当な額になりますよ。だからあれも1つの方法だと思う。スポーツだとか文化だとか何かの賞を取ったという方が卒業生から出た、先ほどの私どもの会社にいる甲子園球児ももっと利用すればいいのではないのでしょうか。また、高経附高との関係なのですが、今、非常に高経附高が高校野球の強豪校に入ってきました。その高経附高と高経大の野球部がなにかうまく組めないのでしょうか。都留文と「鶴鷹祭」という対抗戦みたいなのをやっていますよね。ですから、マスコミに出る頻度を増やす努力も必要で、結果としてその後、マークだとかロゴだとかということになってくるのではないかなと思います。

#### < 委員 >

高校の立場、卒業生がお世話になっている者の立場ということで色々考えさせていただきましたが、評価すべき事項に記載した地方の公立大学だということです。しかしながら実際には全国で展開している。私自身はそれがいいのか悪いのかよくわかりません。と言うのは前提として地方自治体が大学を持つことの意味がどういう事なのか、その意義というのはどういうことなのか、基本的には税金を使ってやっているということを考えると、本来であったらできれば卒業生はあまり全国展開しないほうがいいのではないかなということも考えられるので、そんな懐の狭いことを言うてはいけないのかもしれませんが、その辺との兼ね合いで何とも言えないですが、全国的に注目を集めているような大学がこの地にあるということについては、私自身も自慢の種になっています。高崎の街と一体となっていていろいろなことを展開されているということについては大変ありがたい、私自身も高崎市民としてもありがたいと思うし、大学の存在がよりいっそう大きくなっていくのではないかなという感じがしています。個人的にはもう少し街の中に近い位置に立地しているともっといいと思いますが、地域の貢献という大変評価できるのではないかなと思っています。

改善すべき事項、何といても専任教員数、数そして質というのが大学では一番の根本になるんだろうと思っています。色々事情があるのですが、ここのところについては

絶対に譲れないところだろうと思いますので、質と量の両面に渡る確保ということ、量に制限があるならば質をどう高めていくかということ、これについて工夫いただければと思います。

もう1つ図書館のこと、大学の図書館というイメージとして色々な意味で大学の中心にあるというイメージがあります。何年か前にハーバードへ行ったことがあります、あそこの図書館は本当にすごい。講堂がどうだとか全体の建物がどうだとかいうよりも、図書館を見て圧倒されたということがありました。色々な意味で知の発信地と言いますか、中心にあるべきものが図書館だと思っております。本学の場合、外への開放ということも含めて色々取り組んでいるということもありますので、ぜひ図書館が文化の中心地、そして高崎の地の中心地だということがアピールできるような存在になるといいなあと思っています。全体的な利用率が落ちているという記載があったので、少し寂しい気がして書かせていただきました。

それから総括、大学本来のいわゆる研究と教育、これをしっかりやっていくことが必要でしょう。法人化ということで国立大学、近くでは群大あたりは大変だ大変だと、教員の方々が普段しないこと、あまり得意としないようなことまで仕事としてやらなくては行けない。結果として本務がおろそかになってしまうことも出ているという話も聞きます。本末転倒になったらどうにもなりませんので、そこら辺を配慮していかないとどうかなあと心配になったものです。2つ目に、現実問題として大学に求められるものが大きくなってきたなあということです。表現としては、高校の学習の成果と社会の求める学卒生の能力の狭間うんぬんと書いてあるのですが、簡単に言えば高等学校卒業程度の学力低下は避けられません。例えば学校五日制が始まる前と後で比べれば当たり前ですが、それだけの知識なり技能は落ちているはずですが、一方でこういう社会になっているので、社会の求める力というか力量というのは逆に上がっているであろう、と思います。そこを大学で埋めていただく、という形にならざるをえない。就職活動等があるものですから、実際に埋められるのは3年間くらい。大学院に行ったとしても聞くところによると例えば2年のうち1年はほとんど就職活動で使われてしまう。結局いつ力をつけていくのか、ということになると本当に寒々とするような姿も見えてくる。本来大学がすべき、私は大学というのは即戦力を育てることではないと思っていますので、もっともっと幅広い教養・人格を様々な体験を通して身につけていく場だと思っていますので、そういうことをきちんとやっていくような余裕が実際にはあまりないのではないかと。そこに先ほどのような形で、もしも本来業務以外のことに力を注がなければならぬとすると、さらに絶望的になってしまう。やはり地に足が着いたところでもって大学の行う本来やるべき教育なり研究なりをしっかり軸をはずさないように進められるような環境整備、周辺環境づくりと言ったら良いのでしょうか。

< 委員 >

前橋工科大学は昨年、第三者評価機関から認証評価を受けたわけですが、そのあたりの経験をもとにこの自己点検評価報告書を読ませていただきました。少し内容が細かいかもしれませんが、その時に話題になった件を主に述べさせていただきます。

まず評価すべき事項、教育内容・方法で情報処理教育をICTを使って色んな対応をされていることです。最近特に英語、外国語を中心に、外国の人とコミュニケーションを取れる能力を向上させようと、色々な大学で努力をしていますが、本大学でもeラーニングの環境を整備し、また語学力が増加するようにTOEIC受験を義務化し、また後援会からサポートを受け一括受験の機会を与えることなど、学生が外国人とコミュニケーションできる能力を最大限に鍛えよう、それもICT利用をして鍛えようという点は非常に評価できるのではないかと思います。あともう1つは、学生生活ですが、最近は小学中学高校と、父兄がクレームをしにくる。それが年度ごとに中学校、高校、大学とも父兄がクレームをつける時代になってきている。また同時に学生も健康、精神的な迷いがあります。それに限らず、学生が健康で有意義な学生生活を送るということで、本学では学生環境検討委員会、学生相談連絡会議、六者会議など多面的な方法で対応している。また経済支援、研究活動も組織的に行っている、これも同窓会、後援会、ロータリークラブなど色々な機関をお願いして対応しているということは非常に評価できると思います。

それから研究活動と研究環境ですが、ほとんど毎年のように文部科学省の競争的教育プログラムに採択されており結構件数も多い。これは非常に誇っていいと思っています。それから社会貢献も非常に重視しており、特に公立大学・市立大学というのは本当に地元密着型貢献ということで、経済学部、地域政策学部、それに研究所もそうですが、内容を見ましたが非常に多種多様な活動をして実績を上げていると思っています。特に地域政策学部自体が、地域のことを考える学部ですから、それは非常に誇っていいと思いますので、それは十分PRされることも必要なことかなと思っています。

改善すべき事項、入学者受け入れ方針というのを、最近はず理念・目的を決めなさいよ、それから必ずアドミッションポリシーをきちんと受験生に示しなさいよというのが言われていますので、これは何らかの形で打ち立てるほうが良い、入学者選抜試験前には打ちたてほうが良いと思っています。

次の評価・改善委員会の活動、教員のFD活動についてですが、内容を見ると結構色々なことをやられているというのがわかりますが、教育力増進システムの構築そのあたりをしっかりと前面に打ち出して、今までやられていることを位置づけされればいいのではないかなと感じております。

それから3番目の教員評価システム、教育・研究・社会貢献・管理運営など、まず各先生方から自発的に自己申告、自己点検評価をやっていただく。それでそれを集計してということまではやったのですが、そのシステム構築というのは今後も活用法も含めて必要だと思います。改善すべき事項に入れさせていただきました。

総括としましては、この報告書を読ませていただく限り、修士課程、博士後期課程など

大幅な組織改編・拡充などを行って、大学院、学士課程の充実、教育研究などで十分実績が上げていると私は思いました。また国や県、市町村や地域と連携して多様な成果を上げている。今後さらに地域貢献を期待する、と少し漠然とした結論ですけれども、さらに改革を期待するとしました。本学も高経大を参考にするケースが結構ありますので、今回興味深くこれを読ませていただきました。

#### <委員長>

ここから質問に入り、大学側からの返答なり意見なりを受けたいと思います。

最初に説明された委員から出た、教員数が少ない、キャンパスも狭いという意見から。41人の学生に対して教員が1人と、これは私どももあまり大きなことは言えないのですが、原委員の意見に賛成するところです。この点はいかがでしょう。

#### <大学側>

経済学部と地域政策学部の2学部になりました。地域政策学部ははじめ150人の定員ですが、今は450人の定員、約15年間で学生数が3倍になりました。それから大学院も作りました。しかしながら、ちょうど市の財政状況や地方公務員の削減という事態に直面し、文科省が定める最低限の定員で拡充してきたことがあった。総括的な今回の自己点検、自己評価をきちんとやってこなかった。中長期的展望を持ってなかったということがひとつある。教員だけではなく、実は事務職員も、学生数と教員数が1.5倍前後に増えたのに、事務職員は10年間ほとんど増えていない。その面では人的な問題についてきちんと総括して、長期的な展望で改革していくことが課題であり、こうしたご指摘をひとつひとつ解決、そういう面でも先ほど委員から出ましたPR、色々な面での広報PRが欠けていたと反省しています。

それから校地の問題ですが、市の長期計画では整備するということになってはいますが、まだ目途がついていない。駅前にサテライトを建てようとか、サテライトの場合はそれなりの人員配置だとか交通機関の整備が必要という面で、やはり大学の規模の拡大にあわせた形での中長期的な問題についての検討が充分でなかったということが一番大きな点だと思います。これを機にそういう問題について、大学、高崎市、市民、色々な方たちの理解を得ていきたいと思っています。

#### <委員長>

ブランド戦略が不可欠、校名の検討、高経大の魅力、ホームページが暗すぎる、など色々出ましたが、これらについて大学側から説明をお願いします。

#### <大学側>

はっきり言いますと大学の企画、戦略部門が整っていない、これがこれからの大きな課

題です。あわせて広報専門のスタッフが整っていないことがご指摘の通りということがあって、まさにこれら2つの点は、大学の欠陥だと思っていますので改善していきたいと思っています。

#### <大学側>

校名という話がでましたが、実は複学部になるときに一部そういう話は出ましたが、経済大学としての歴史がその時で40年近くありました。また今回も独法化に向かって変えたらどうだということもあったのですが、歴史が50年を越えてきてますので、変更は難しいということで、今のところ高崎経済大学で全国的に通っているのも逆に変えないでこのままいったほうがいいのか、というのが現状です。

#### <委員>

校名について、PRする場合「市立」というのは付けられるんですね。

#### <大学側>

正式名称にはないのですが、各種の広報物には「市立」を校名の前に付けています。

#### <委員>

前工大は、高経大を参考に、つけていいのかと文科省に相談しました。問題ありませんということをおいわれたので、広報の時、例えばホームページなどでは公立前橋工科大としています。

#### <委員長>

フリーディスカッションに入る前に、もう1つ質問事項がありますので、それに対してざっくりばらんにご説明させていただきます。経済学部、地域政策学部で教養教育について色々対応しているのですが、情報交換やシステムの方向性の検討などやっているのでしょうか。

#### <大学側>

制度的にそういうことをやるというのはありませんし、実質的にも今のところやっていません。教養教育、一般教育について、経済学部はずっと今のやりかたで来たのですが、地域政策学部は従来型の教養教育とは少し違うスタイルを取りました。その段階で全く違うスタンスでした。地域政策学部は最近、経済学部と同じ方向には来ていると思いますが、そのへんが全く違ったことから、話し合うということはない、という事だと思います。TOEICに対しても、各学部の語学の教員のスタンスが微妙に違いますので、地域政策学部が先に動き出して、経済学部は遅ればせながらなったということで、お互いに、お互い

の長所と短所を見ながら少しずつ変えていくということで、お互いが一緒に話し合って何かをするという体制にはなっていないということです。現状では特に大きな問題はないと認識しています。

#### <大学側>

付け加えますが語学センターとか教養の全学的なセンターを作るというのも1つの課題であることは事実ですが、単位互換は学部間で実施しているのですが、私どもの大学は1学年1,000人を超えており、教養教育を統一でやったときには極端な話1,000人の授業ができてしまいます。各学部でも500人を超えていますので、やはり300人とか400人の授業が生まれています。そのところをどう工夫していくかという、ある面では教育の質の確保と体系的な教育体系が課題で、私自身もその問題に対して踏み切れてない事情がそういうところにあります。

#### <委員長>

次に委員からの4つの質問、公立大学法人化によるメリット、デメリット、学生の気質、一般的な学生生活、学生は高経大をどうとらえているのか(愛校心、ロイヤリティ度など)について。

#### <大学側>

国立大学で法人化をした所期の狙いは、社会の変化に応じて柔軟な意思決定を行って大学改革を進めるということがメリットだと思います。それからもう1つは大学法人化の場合は、中期目標を作って、中期計画を作ってそれを達成したかどうかということをしていく。大学の運営において計画と実行責任、実行の結果が問われるということが、大学の法人化のメリットだと思います。

デメリットというのはなかなか難しい問題ですが基本的には独立するということですから、大学の経営でみますと、運営費交付金等全体としては色々な予算が削られる傾向にある。また、公立大学であると必要なかったことが色々あります。労働安全基準、会計監査も必要になってくる。そういう面での経費が逆にかかってくる場合もあるということです。

#### <委員>

学生の気質や生活の変化について、また、卒業生は大学のことをどう思っているのかなどについてもお聞きしたいと思います。

#### <大学側>

学生の資質について、私は1970年から1975年までこの大学の学生だったので、その頃から見るとずいぶん今の学生は変わりました。我々が学生のときはあまり大学の授

業には出ませんでした。自分の好きな授業は良く出て、本もよく読みましたし、抽象的な議論をたくさんしました。遊んでもいましたが、いわゆる理論性、論理構築力みたいなものは、徹底的に本を読んで勉強しました。それから見ると今の学生は非常にまじめで素直で、授業の出席はかなりしますし、我々も出席を取りますし、わかりやすい授業をと工夫しますので、大学自体の変化とともに学生の質も相当変わってきました。ただ社会のエリートとしての大学の存在から、ユニバーサルってというか大衆化を経て、半分以上が大学生になるという日本全体の変化のなかでおきている学生の質の変化であって、基本的には結構まじめで非常に基礎的な力がある学生が多いので、我々の研究・教育のあり方によってすごく伸びるし、教育の枠組みをうまく提案すれば非常に成長して社会の中で活躍できる基礎的な力を持っている学生が多いという風を感じております。そのなかで経済学部も地域政策学部も研究・教育についてそれなりの努力をして伸びているからこそ社会の中で、社会に出てからも活躍しているんだと思っております。

一般的な学生生活としてこの2年間ほど、学生生活実態調査をやっています、どういう生活をしているかを我々は把握しながら、例えば先ほどのような経済状況で非常に困ったものに対して、独自の奨学金を用意したり、奨学金も含めたそういう支援システムを作ったり、学生はメンタルな部分の悩みが非常に多いのでその整備を充実させたりしております。

全体的な高崎経済大学の特徴として、例えば4,000人のうちサークル活動、部活、運動部、文化部を含めて2,000人を超える学生、半分から3分の2の学生が何らかの形で集団に所属していて、しかも自主自立的に部活サークル活動をやっている色々な集団のトレーニングを自ら行っています。それは結構彼らの財産になっているのではないかと。ロイヤリティも自分たちでその集団にいる、部活やサークルに参加している、あるいはゼミが10人前後でかなり徹底的にやりますので、サークルに属さなくてもゼミの中で地域貢献活動であったり調査研究活動であったり、そういう事をやることによって引きこもりの学生が非常に少ないと言えるのではないかと思います。そういう意味での愛着というか、高崎市に7割県外から来ていますけど、私の知り合いもよく高崎に遊びに来ますので、リピーターとして訪れて高崎を第2のふるさとという感じでやってきますので、ロイヤリティは高いのではないかと。

今年卒業生アンケート、企業アンケートをやりたいと思っていますので、それを客観的に計りたいなど。何が課題なのかをきちんとつかみたいと思っています。

#### <委員長>

自由に意見交換、提言など何でも結構です。

#### <委員>

街を上げてのバックアップとか、地域との交流、繋がりはどうでしょう？

### <大学側>

中味的には例えば日本で最初にたかさき活性剤本舗というのを立ち上げました。学生による中心市街地の活性化のために空き店舗を利用して行ったというのは、多分あれが全国で最初です。5、6年非常に積極的な活動をして、今現在は割と地味にはなったのですが、裏道マップとか色々な調査をしながら活動を続けています。あと例えば学園祭も、三扇祭実行委員会を立ち上げて、新入生歓迎会から大学祭まで、経済学部と地域政策学部の学生が合わさった実行委員会が運営するんですが、その中に地域の人たちが来るような仕掛けを、実数はつかめていないと思うんですが、隣人祭りみたいなのがあって、高崎で活動するNPOとか、色々な活動をしている住民の人をキャンパスに呼んで交流をして、例えば食事を取りながら意見交換会をやったりと、様々な試みをやっています。そのほかに例えば去年だと、内閣府の地方の元気再生事業で、この新聞にも載っていますが、経済学部の先生が音頭を取って、経済学部の学生が企画・運営して「たかさき昼市」という地産地消の取り組みを月1回ずっとやりました。このようにあちらこちらで学生と地域の人たちの共同事業というのが、起きてきているので、そういう意味での地域住民との実質的な交流といえますか、プロジェクトを通じた交流が相当生まれてきているという風に感じています。その中で、体験の中でコミュニケーション力とか、人間関係形成能力であったり、企画力であったり、交渉力であったりが育っていているということを我々は感じています。

組織的に高崎市民と高崎経済大学まちづくり交流協議会みたいな、そういう新たな組織を作ったというやり方はしてなくて、1つの事業ごとに、そこに商工会議所がメンバーに入ってもらったり、それぞれそのつどとなっています。全体的には例えばダイヤモンドペガサスとの交流で協定を結んだり、中身はこれからになると思うんですが、そういう外からの提携があればそのつど検討して、開かれた大学として実践していると言えると思います。

### <大学側>

交流という点でひとつだけ補足させてもらいますが、私どもの陸上競技部が2年ほど前から高崎市の小学生を集めて浜川の競技場で競技会を開催しています。陸上競技部の大会運営ノウハウを学んでもらうと同時に、市民の方に貢献しようということで、非常に喜ばれた競技会をやっています。

### <委員>

教員の中で、女性教員が20%くらいですが、文科系だと多いのですかね。

### <大学側>

確か国公立大学の平均が12%だったように記憶しています。本学では100人近い教員がおり、経済学部の女性の先生は10人近い。地域政策学部は9人ですから、本学全体で20%ですから平均を上回っています。

<委員>

女性のためにPRしてもよいのではと思っています。

その同じ教員のことですけれど、内部昇格というか昇任というのはどのようにされているのですか。

<大学側>

准教授から教授の昇格は、教授の比率を6割という枠がありますので、評議会で各学部に今年は何人という昇格の枠を示して、それに基づいて各学部で教授昇格適格者を選びます。その昇格の基準は、両学部共通のものです。それで教授会で業績審査委員会を経て教授会の投票で決定します。講師から准教授は、講師暦3年で准教授に適格の業績と年齢をクリアーした場合、業績審査委員会を経て教授会での投票で決定します。

<委員>

もしだめな場合はどうするのですか？

<大学側>

予め人事委員会で業績等をもとに適格かどうかを全部点数で計算して、基準に満たない場合は対象に載せません。

<委員長>

ほかに何かご質問はありますか。

<委員>

色々な大学で入試とのミスマッチの関係か、教育課程とのミスマッチとの関係か、例えば医学部に行くのに生物をやってない。けれども大学は取っちゃう。取った代わりに入学させてから勉強させている、補充学習と言うのでしょうか。そういうものをやっている学校も、旧帝大クラスでも出てきていると言う話もありますが、やはり我々実際に高校生を預かっていて、何年か単位で少しずつ色々と低下をしている印象を持ちます。同じことを大学の方でも感じているのかなと思うのですが、それに対する手当てみたいなものは、高経大の場合は例えばどんな実態なのでしょう。

<大学側>

他の先生方に補足をお願いしたいと思うのですが、地域政策学部と経済学部とでは違う部分がありますが、地域政策学部では英語に関して、やはり英語力が10年それから20年というスパンで見えていくと、若干落ちているという感は否めない。それで、能力別で大きく3つのレベルに分け、人数は20人から30人くらいですが、英語が得意ではない学生を集めてその中でやっていく、そういったことを考えてずっと実施しています。

それと、アカデミックないわゆるその個別の科目の補講ということではありませんけれども地域政策学においては、1年生の前期に専任教員が全員でだいたい10人程度の1年生のクラスを持ち、そこで図書館の使い方とかレポートの書き方、それからプレゼンの仕方とかそういったことをやります。先ほど話がありましたように、本学では今の時代から見ると非常にサークルに入る学生が多いのですが、それも100%というわけではありませんので、特に地方から来ている学生でサークルに入らないと引きこもりになってしまうこともありうるので、そういった意味で最初は10人程度のクラスでなるべくサークルに入りなさいとか、そこで居場所を作るという、そういったこともやっております。1年生の前期に学生の様子を見て、10人全員が1年生なので、最初やっぱり正直申しまして1人とか出てこない学生もいるのですが、それでも見ていると3週間目くらいにこそっと出てくるんですね。その時に捕まえて携帯のメールアドレスを交換して、そうするとずっと前期は来るようになります。それでもやはり1学年420人いる関係で、全員420人びっちり行きませんので若干単位がとれないような学生、すなわち出てこないような学生がいるのですが、それに関しては後期再履修ということで対応しています。

#### <大学側>

経済学部ですが、高校生の学力の低下という問題に対して色々な手立てがあろうと思いますが、ひとつは推薦入試で合格した学生には、入学まで時間があるので、今年から英語の課題の図書を指定し、勉強してきてくださいというお願いをし、入学式後に試験をする、という対応を行っています。特段高校の授業の補講のようなことはしておりませんが、例えば数学に関しては、「経済・経営のための数学」という授業を設けていますので、そういうところで勉強する。それから1年生の必修ということで、「企業と会計」「市場と経済」という名前で経済学の基礎とか経営学の基礎を、高校を卒業したレベルから大学の授業に橋渡しをするような入門的な授業をつくって、すべての学生に受けてもらう、こんなことをしており、出来るだけ高校のレベルから大学のレベルにスムーズに移行してもらう、そんなことをしています。

#### <大学側>

今後よほどのことがない限り高校の復習をするようなクラスを設けなければならないというところにはたぶん今の倍率から言って、そのレベルの学生が入ってくることは考えにくいです。

先ほど推薦入試で今年から勉強してきてもらうということなのですが、かなり前から推薦入試でも実は、英語は試験をやっています。その英語の試験が一定の水準に達していない。英語の先生が今年はこの点数、そこに達していない受験生に対しては校長先生に対して、入ってくるまでに英語の学習をさせて下さい。計画を作ってこちらに送って下さいという形で対応しています。

#### <委員>

高崎高校にお邪魔した際に、学力の低下が少し感じられると校長が心配されていましたが、高崎だけではなく、群馬県もう少しのばして、北関東、全国で見ても学力の低下が感じられると話がありました。私なんかそう言われてもよくわかりませんが、これが事実だとすると、根本的に何か基本的な問題があるのかという心配もあるので、ぜひ1つその辺のところの原因の追及などしてもらえればありがたいなと思います。

それから本題から外れて恐縮ですが、栗原さんから広報・PRが下手だという話がありましたが、これは確かにあります。高崎、前橋ということではなくて群馬県全体の県民性でしょうかね。自分が積極的にPRするっていうことがどうもないですね。この間も松浦市長と話しました。昨日も大澤知事と話したのですが、知事に、群馬県の知名度っていうのは全国的にみてもそんなにないでしょうと聞いたら、知事になってそれを一番感じていると言っていました。九州の方に行くと、高崎・前橋はどこにあるのですかという感じで、これは高経大の生徒は全国から集まっているからこの範囲では全国区になっていると思いますけれども、色々な意味の立地条件から言うと、東京から100キロのところの高崎があるのに知らないですもんね。

これはちょっと井上理事長が来られているのに申し訳ないのですが、路線価は県庁所在地の一番高い地点の比較が出ますが、残念ながら群馬県は3年連続最下位なんですよね。沖縄や鳥取、島根のほうが高い。これは高崎を出してくれれば、宇都宮と同じくらいの数字が出るのですが。税務署の署長にも、県庁所在地じゃなくてその県の一番高いところに行こうと話をしてみました、それこそ官民挙げてPRしてもらえたらなと思います。

#### <委員長>

ほかに意見がありますか。

#### <委員>

これまでも、「視点・オピニオン21」のメンバーとして何人もの先生に書いていただいておりますが、実は今、群大と「健康通信くらぶ」という件で提携し、情報提供をいただく代わりにPRをしましょうということをやっています。高経大も何かPRになるものを積極にご提案されたいかがでしょうか？ 広く県民の方たちに説明できるようなことをやっていただければ、高経大の知名度、理解度もより一層上がると思います。

**<委員長>**

そろそろ意見も出尽くしたようですが、よろしいでしょうか。それでは、本日の意見の取りまとめについて、いかがいたしましょうか。

「委員長に一任」との発言あり。

ただいま、委員長一任とのご発言がありました。私にご一任いただくことでよろしいでしょうか。それでは、これで、議事の(2)は終わりにしたいと思います。

次に、議事の(3)「その他」でございますが、委員の皆さんから何かございますか。事務局から何かありますか。

**<事務局>**

本日の会議の内容につきましては委員会規程第8条の規定によりまして公表することとされております。つきましては、のちほど委員長さんに取りまとめていただくことになりました。意見とともに本日の資料・議事録など外部評価報告書やホームページで公表いたします。また、議事録につきましては整理させていただき各委員の皆様方に送付させていただきます。内容をご確認いただきお気づきの点がございましたらご連絡をいただけたらと考えております。どうぞよろしくお願いたします。以上でございます。